

ニワトリにおける動物由来感染症:あなたの家族を安全に保つために!

はじめに

自宅でニワトリ(訳者注:鶏小屋で小規模に営利目的でなく飼育されているもの)を飼うことは最近10年間で人気が高まっていますが、飼い主が一般的な家禽の病気が人々に感染する事もあるという事を知らないという報告もあります。

ニワトリの病気には人に感染するものもあります。

家禽は歴史的に採卵と食肉用に飼育されてきましたが、最近ではペットとして飼われることが増えています。したがって、飼い主は健康なニワトリの保有する微生物叢と、それらが引き起こす人の病気について理解することが重要です。さらに、ニワトリと人の両方に病気を引き起こす微生物もあります。したがって、ニワトリが病気になった場合は、どのような微生物が原因となっている可能性があるか、また自分自身を感染症から守るための最善の方法を理解することが重要です。ニワトリから人に伝染する可能性のある、細菌、ウイルス、寄生虫、真菌が引き起こす感染症を、ボックス1に示します。

人間では、これらの病原体が引き起こす症状は様々です。皮膚の発疹、発熱、呼吸器疾患、頭痛、結膜炎、胸痛、リンパ節腫脹、腹痛、下痢、嘔吐、首のこわばり、震え、けいれんまたは他の神経症状および体重減少、運動不耐症、死などが起こります。

サルモネラ症およびカンピロバクター症は、ニワトリの中で最も一般的に報告されている動物由来感染症です。人がこれらの病原体に感染するリスクは、ニワトリへのワクチン接種によって減らすことができます。ワクチン接種によって、サルモネラ・エンテリティディス菌とサルモネラ・ティフィムリウム菌の糞便中への排出が減少します。しかし、ワクチンでは卵や鶏肉が汚染されるリスクを防げないので、卵や鶏肉を適切な衛生管理のもとで扱い、食中毒を予防することが大切です。

ボックス1:人々に伝染するニワトリの感染症

ウイルス

鳥インフルエンザ、ニューカッスル病、ウエストナイル熱、東部および西部ウマ脳炎

細菌

食中毒菌: サルモネラ菌、カンピロバクター、大腸菌症、ウェルシュ菌、ブドウ球菌、リステリア・モノサイトゲネス、エルシニア菌

その他: クラミディア・シッタシ(オウム病)、豚丹毒、マイコバクテリア・アビウム、パスツレラ・マルトシダ

寄生虫

クリプトスポリジア

菌類

ミクロスポラム・ガリネ



動物がいる場所では、飲食や口の中に物を入れたりしないこと。

ニワトリが直接伝播しない病気に人が感染する可能性があります。

第一に、ネズミが鶏小屋に好んで出入りし、レプトスピラ症、鼠咬症、ハンタウイルス感染症などの病気をばらまく可能性があります。水中で発生した蚊が、特定のウイルス性疾患をニワトリから人に伝搬する可能性があります。ネズミと蚊を、鶏小屋に近づけないことが重要です。ネズミの巣穴や糞が見つければ、ネズミが出入りしているサインです。巣穴をふさいで、餌をネズミにかじられない容器に入れておきましょう。また、餌をこぼして食べられる事がないようにしましょう。

第二に、ニワトリが保菌者ではありませんが、ヒストプラズマ・カプスラーツムやクリプトコッカス・ネオフォルマンズなどの病原性のある真菌は鳥の糞便中で増殖します。鶏小屋のゴミや残った餌などの有機物は、こまめに取り除きましょう。また、環境の汚染を防ぐために、養鶏での使用が承認された消毒剤で天井、壁、巣、床を定期的に洗ってください。



aav.orgにアクセスするか、Facebookで
facebook.com/aavonlineにアクセスしてください。

ニワトリにおける動物由来感染症:あなたの家族を安全に保つために!



第三に、鶏由来のタンパク質に対して、アレルギー性肺炎と呼ばれるアレルギー反応を引き起こす可能性があります。タンパク質は、羽の脂粉または鳥の糞便の乾燥した粉塵に含まれます。予防するためには、抜け落ちた羽根を定期的に取り除き、小屋の換気を適切に行い、呼吸器を刺激する可能性のある物質を最小限に抑える必要があります。

高齢者、妊娠中の女性、幼い子供、免疫不全の人々は、ニワトリの周りでは特に注意する必要があります。

高齢者、妊娠中の女性、幼児、免疫不全の人々は、動物の周りでは特に注意する必要があります。ニワトリによって伝染する病気に、より高い感受性を持っているからです。さらに、感染症の重症化が起こりやすい傾向もあります。しかし、適切な飼育と衛生管理を行えば、ほとんどの健康な人は、安全に飼育することができ、卵を食べることも可能です。その際、ニワトリは屋外の小屋と室内のケージのどちらかで飼育しても問題ありません。

鶏小屋に触れたり近づいたりした後は、すぐに石鹸と水で手を洗ってください

ニワトリが伝搬する動物由来感染症のほとんどは、汚染された糞便を含む粉塵やエアロゾルの吸入、または糞便で汚染された水や食物の摂取によって伝染します。したがって、ゴミを掃除するときはマスクを着用し、飼育作業の後に手をしっかり洗えば、病原体を取り込むリスクを減らすことができます。サルモネラ菌など、卵を食べることで感染する病気は、台所を清潔に保ち、しっかりと火を通すことで予防できます。

一部の病原菌は、衣服や靴に付着して、鶏小屋から家に持ち込まれることがあります。理想的には、小屋の中やその周りで作業するときは、全身を覆うことができる衣服を防護服として使用する必要があります。この衣服は、使用しないときは家の外に置いておきます。小屋で使用する靴または長靴は作業用とし、普段履くものと別に用意する必要があります。

適切な衛生管理と設備を整えれば、大体の動物由来感染症はコントロールできます。しかし、主要な感染症である、鳥インフルエンザやニューカッスル病などの近隣地域での発生状況には注意してください。これらの感染症があなたのニワトリに感染することを防ぐためには特別な対策が必要になります。

伝染病の発生が疑われる場合の対処方法

あなたになにか症状が出て、病院で受診する際は、自分が鳥を飼っている旨を必ず伝えてください。自宅で飼っているニワトリがあなたの不調の原因であると疑われる場合、すぐ獣医師にも相談してください。

受診の際は、鳥を飼っていることを伝えてください。

ニワトリが体調不良の場合は、獣医師に相談してください。動物由来感染症と診断された場合、あなたとご家族も感染している可能性がありますので、病院に連絡し、必要な医療を受けてください。死亡した鳥は、獣医師と相談し、各自治体の決まりに沿って処分する必要があります。

ニワトリにおける動物由来感染症:あなたの家族を安全に保つために!

AAV: 1980 年以来鳥類の健康管理の基準を設定

鳥類の診療は、鳥を治療し入院させるために特別に設計整備された施設、広範囲な訓練、高度な技術を必要とする類まれで非常に特殊な分野です。鳥類獣医師協会(AAV)は、この特別な知識を獣医師に提供し、鳥の健康に関する最新情報を提供するために設立されました。AAVは、鳥の医学に関する総会を毎年開催し、査読されたJournal of Avian Medicine and Surgeryを発行しています。また、毎年AAVは鳥類保護活動への寄付を行い、鳥類医療の理解を深める研究を後援しています。

さらに詳しい情報のパンフレット

鳥に関する詳細については、動物病院で以下のAAV クライアント・エデュケーション・パンフレットを入手してください。

- 鳥のクラミジア症とオウム病
- ペットバードのための獣医学的ケア*
- コンパニオンバードの基本的なケア*
- 正常な行動と異常行動
- 自宅でのニワトリ飼育
- デジタルスケール
- 毛引き
- 鳥の餌
- ケガ予防と救急医療
- ペットバードの産卵管理
- コンパニオンバードの病気の兆候*
- コンパニオンバードのための紫外線ライト
- 動物病院を受診するのはいつですか?*
- ニワトリにおける動物由来感染症*

*多言語で提供。他のすべては現時点で英語のみ提供。

オンラインリソース

FacebookでAAV(www.facebook.com/aavonline)をフォローしてください。ペットバードの飼い主のための素晴らしいヒントや最新ニュースをお届けしています。Twitter(@aavonline)やYouTubeにもAAVのアカウントがあります。

AAVのウェブサイトwww.aav.orgでは、検索ツールを使って世界中の鳥類獣医師を見つける事ができます。基本的な鳥の飼育方法など、さまざまな資料も提供しています。今すぐ、ウェブサイトをご覧ください!

免責事項:この翻訳された情報は北米の読者のために書かれました。地域および特定の国の規則および規制は異なる場合があります。また、説明されているすべての手順および詳細がお住まいの国や地域で許可されているわけではありません。読者は、提供された情報を読んで実行する前にお住まいの地域の法律が遵守されていることを確認するようお勧めいたします。



aav.orgにアクセスするか、Facebookで [facebook.com/aavonline](https://www.facebook.com/aavonline)にアクセスしてください。

© 2019

鳥類獣医師協会 (AAV)

PO Box 9, Teaneck, NJ 07666